

週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎(752)0453 植田 進 ☎(487)9754
いはら 忠 ☎(488)7207

発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5
☎(483)1151

市民負担オンパレードの新年度予算!!

新年度予算についての議員説明会が10日開催されましたが、「ここまでやるのか、削るのか」と怒り心頭に達するかってない市民負担増とサービス低下の予算案が、秋葉市長から提案されました。

市民のみなさんから、「ある日突然と補助金がカットされ通知がきた、どうしたらいいのか」「ハコモノの裏切りにつづき配食サービスの切り捨てに我慢も限界」など、怒りと不満の声が寄せられています。

市民負担増に怒り爆発

ふれあいプラザ団体送迎用バス 1675万円、高齢者等配食サービス費助成金 3974万円、障害者配食サービス助成金 346万円、フリーパレット 119万円、団体貸出し用福祉バス 107万円、施設通所交通費助成金 28万円などこんなところまで削るのかと市民に冷たい予算案となっています。

市は財源確保にどう頑張ったのか

市民負担によらない財源確保として計上されているのは、ふるさと納税寄付金 100万円のみで、高齢者インフルエンザ予防接種自己負担の増額 1000円⇒1500円の引き上げによる1200万円、学校開放体育館使用料 無料から有料化による1000万円、八千代総合運動公園駐車場使用料無料から有料化による980万円など、いずれも市民に負担を転嫁しようとするもので、市の才覚で歳入増を図ったのは皆無といっても言い過ぎではありません。

手続き上も大問題

事業仕訳による判定結果として、現行通りとされたものが廃止となった事業のうち、障害者配食サービス費助成金 346万円などが含まれ、秋葉市長には市民を思う心がないのかと疑わざるを得ない深刻な状況です。

市民活動団体支援金の400万円⇒200万円に削減され、10万円を限度とするとの仕打ちに、関係する団体の方から、「新年度の事業計画は、1年前から準備しているのに、突然の削減に怒りの声が上がっています。



秋葉市長は自ら退陣すべき

「新川ハコモノ計画はやるべきではなかった」(有識者会議)と言われるように、公約裏切りへの反省もなく、自ら財源確保への努力もせず、市民にだけ負担を押しつけて恥じない秋葉市長は、「誰が市長をやっても市の財政の深刻さは変わらない」とある議員にのべているのなら自ら退陣すべきです。